

田尻

第15号

発行日
発行
発行責任者
編集
事務局
電話・FAX

2021年11月30日
田尻学区コミュニティ推進会
田尻地区社会福祉協議会
大森健一
広報部
田尻交流センター
(42)1552

地域みんなの協力で清流に蘇る



上流域 市営上の代団地北側

田尻川河川敷清掃

雨天のため、一週間延期された10月24日、第20回「田尻川河川敷清掃」が実施された。昨年同様、新型コロナウィルス感染症防止を図りながら田尻川の上流域から下流域へと、早朝から各支部・町内会の皆さんのがんばりの参加のもと川の清掃を行った。河川敷の雑草が伸びていて大変だったが、おかげさまで、川がきれいに蘇りました。参加した皆さんにとって、無事終了したことに感謝したい。なお、高齢化が進んでおり、来年は次世代の皆さんのがんばりの参加を望みます。



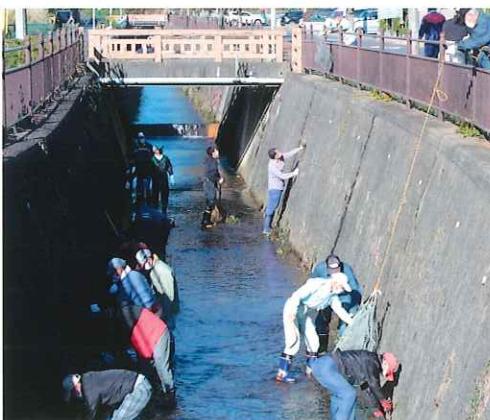
常磐線架橋下



交流センター脇

今後の主な予定

1月31日(月)	1月19日(水)	1月29日(水)	1月20日(木)	1月12日(土)	1月18日(土)	1月11日(日)	1月6日(月)
広報紙「田尻」発行	交流センター休館日	交流センター休館日	市報梱包	青少年連絡協議会	自主防災訓練	田尻川河川敷清掃	教養大学
市報梱包		1月3日(月)	1月3日(月)	田尻川河川敷清掃	田尻川河川敷清掃	田尻川河川敷清掃	田尻川河川敷清掃



下流域 なかしま公園近辺



てらまえ公園近辺

令和3年5月20日から
避難指示で必ず避難
避難勧告は廃止です



部会だより

自主防災防犯部

実際に避難行動が必要となるのは、レベル3以上です。防災情報自体の意味がよくわからなくても、「今か」さえ知ることができます。どのようない行動を取れば、どのがわかる仕組みになっています。

日頃から、自宅周りの地形や環境を知ることで、自分が起きた前に、もう一度災にも役立つ。痛ましい災害が起きる前に、もう一度家族や近隣住民で周りの確認を行い、情報共有していきたいものです。

防災と減災に努めましょう

新型コロナ感染を気にしながら月2回、市報・市議会だより・社協だより・募金案内資料・交流センター行事回覧などを梱包し常任委員宅に配達しています。今年は雨の日が多く、どこに置けば濡れないかと悩みます。委員さん、小さな箱でもご配慮ください。

市報梱包部

ふるさと歩こう会

日立中里フルーツ街道バスハイク
10月31日、30人の参加者がバスで中里フルーツ街道に向かい、果樹園などを散策した。
今年はリンゴや柿が豊作のことなど、リソース狩りを楽しんだ後、昼食の宿へ。食後、美肌効果満点、不老長寿の温泉で疲れを癒し、満たされた気分で帰路についた。



たわわに実ったリンゴ

田尻の魅力再発見ウォーク

渡志観音堂跡と自然豊かな海岸散策
11月14日、暖かな晴天に恵まれた中、田尻の魅力再発見ウォークとして「渡志観音堂跡と自然豊かな海岸散策」に参加しました。



太田尻海岸で製塩の説明を聞く

ウが休息する様子を見ることができました。来年は是非、皆さんも参加してみませんか？
(赤羽支部 菊池典子)



マスクで感染予防して梱包



田沢消防所だより

～火の用心～

火災予防に努めます。身の回りの点検を行い、火災予防に努めます。



年末の大掃除の季節となりました。この機会にタンスや冷蔵庫の裏にあるコンセント周辺を掃除してみてはいかがでしょうか。コンセントに埃が溜まり、それが湿気を帶びると火災の危険があります。このような火災は『トラッキング火災』と言います。これから寒く、空気が乾燥する時期になり、火災件数が増えてきます。

日高交番だより

反射材を活用しましょう



日立警察署
(42) 0110
□ □

- 夕暮れや夜間に歩く時は、反射材などを身につけたり、白系の明るい服装をしましょう
- 人の視界は暗い側から明るい側は見えやすいが、その逆は見にくい。(歩行者側から見るより車の運転手側からは認識できない)
- 反射材は車のライトを反射するため、運転手から見える距離が長くなる。



ヘッドライト下向き

黒っぽい服装

明るい服装

反射材着用

57m以上

馬上行男さん 茨城県老人クラブ連合会 より表彰



さんあいコーナー

馬上行男さん（下田尻支部）は、学区高齢者クラブ連合会会長、天神前むづみクラブ会長として、老人クラブの発展に尽力し、その業績が顕著であることを認められ、県老人クラブ連合会より表彰された。今後益々のご活躍が期待される。

高村進さん（下田尻支部）



日立市社会福祉 協議会会長顕彰

令和3年度日立市社会福祉協議会会長顕彰で、田尻学区における地域福祉活動に積極的に協力援助した功績を認められ、高村進さん、小貫利子さん、安部麗子さんが顕彰された。今後益々のご活躍が期待される。

小貫利子さん（下相田第2支部）



11月4日、社協・東京電力・関東電気保安協会・東京ガス・トンカチの会・消防のご協力をいただき、巡回安全サービスが行われました。

ひとり暮らしの方を訪問し、電気・ガスの安全点検や家屋点検、火災報知機の設置作業をしていただきました。

皆様からは、設備の点検及び不便を感じていた場所を修理していただき、「安心して生活できます」と感謝されました。民生委員・児童委員の立場から、ひとり暮らしの全世帯に実施していただければ大変良いと感じました。

今後も、このような機会がありましたら、積極的に利用してみてはどうでしょうか？

（下田尻支部 川瀬秀子）

安部麗子さん（下田尻支部）



田沢ふれあいサロン

コロナ禍の影響で、しばらくお休みしていたサロンが、10月12日にやつと再開できました。この日は、民話の語り部の先生をお招きして楽しみました。

体操をして身体をほぐし、心身ともにリフレッシュしました。

大字地方に伝わる天狗と子どもの話、親切なおじいさんとおばあさん、旅人が登場するお話など…。先生の絶妙な語り口に引き込まれ、アハハ、オホホ、ウーン、なるほど、と時間が過ぎていきました。



民話の世界に引き込まれます

皆様からは、設備の点検及び不便を感じていた場所を修理していただき、「安心して生活できます」と感謝されました。民生委員・児童委員の立場から、ひとり暮らしの全世帯に実施していただければ大変良いと感じました。



消防による火災報知機の設置

巡回安全サービス

場から、ひとり暮らしの全世帯に実施していただければ大変良いと感じました。

力ラスの雑学

たじい 短信

前号に続いてカラスのお話をす。①カラスは英語ではcrow（クロ）で、語呂合わせで9月6日がカラスの日です。②漢字で書くと鴉です。カラスには

くのでこの字を当ててこの漢字になります。因みにこの鳥は象形文字です。③鳴き声で、1回は挨拶、2回は空腹、3回は安全、4回は警戒…：8回は集合などで、彼らも私たちと同じで、仲間と会話をするために鳴いているようだ。④田尻地域ではハシブトカラスとハシボソカラスの2種類がほとんどで、前者は両足を出してピヨンピヨンと跳ねるように歩く。後者は足を交互に出して二足で歩く。⑤視力は人間の約5倍で、人間には7色に見える虹も、彼らには14色以上に見える可能性があるそうです。⑥カラスは昼行性で、先ほどの2種類の寿命は7～10年くらいです。また、慣用句では「カラスの行水」「烏合の衆」「今泣いたカラスがもう笑う」などに登場します。カラスがもう笑うなどと登場します。案山子」などで歌われています。こうやって見ると、カラスと私たちとは神話の時代から関わりが深く、今のようにそれほど嫌われる者の鳥ではなかったようですね。

（武石）

10月から全世帯を対象に、防災グッズ入りの非常持出袋を順次配布します。



■配布期間: 2021年10月~2022年3月頃
 ■対象: 市内各世帯に1組(住民登録外、事業所は除く)
 ■配達業者: 日本郵便
 ■配達方法: ゆうパック(宅配ボックス及び玄関前配達)
 〈お問い合わせ〉日立市非常持出袋コールセンター
 電話: 050-5528-5157
 (平日のみ午前9時~午後5時)

田尻交流センターだより

10月2日、臨時部会長会議が開催され、6月に亡くなられた小柳恵子さんの後任として、コミ推・地区社協副会長(総務担当)に山川泰子さん、学区文化協会会长に榎田利國さんがそれぞれ選考・承認された。



榎田さん



山川さん

市から「非常持出袋」配布される

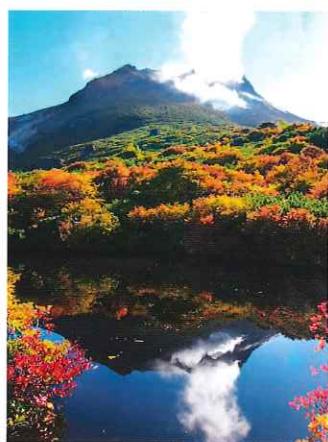
10月~来年3月にかけて、日立市から各世帯に「非常持出袋」が配られる予定です。これは、平成23年3月11日に発生した東日本大震災から、今年で10年の節目を迎えたことを契機として、市民一人ひとりの防災意識の向上を図り、災害への日頃の備えを再確認することを目的としています。学区の皆さんも、各自家庭で防災について話し合い、考えるきっかけとしてください。

私の故郷紹介 ㉙

(栃木県編)

那須塩原市

那須塩原市は、那須連峰とその懷に那須、塩原温泉郷があり、麓には御用邸や様々なスタイルのお店やアウトレットもある。大山巖(日露戦争陸軍総司令官)の神社と農園、乃木希典(日露戦争隆盛の弟)のほか、三島通庸、青木周蔵、毛利元敏、松方正義などの、農地と別邸が点在する。当時、水のない那須野ヶ原に突貫工事で疎水を作り、元勲達が「華



(下田尻支部 小林明光)

支部トピックス

上田尻支部

五月会では地域への感謝を込めて、年3回の奉仕作業を行っている。

内容は草刈りと清掃などで、場所は田尻川岸、河川公園、田尻宿公民館前広場である。春の作業は気分も爽快で、終ったあとのみんなで食べた昼食がとても美味しかった。8月はコロナのため自粛し、9月に行つたが、あいにくの高温多湿の真夏日で、全員が全身汗びっしょりとなつて悪戦苦闘した。3回目の11月はコロナも下火となり気温も下がつたが、前の2回と同様、マスク着用での作

業は本当に大変だった。それでもきれいになった現場を見ると気持ちも明るくなり清々しい気分になった。



水分補給で一息入れる

奉仕作業を終えて(五月会)

近年秋の味覚サンマが不漁で高値が続くが、メディアによると厚岸町で初値が一匹3500円と高値がついたという。サンマは北太平洋で成長し寒流と共に千葉県まで南下する。地球温暖化で海水温度が上昇し、サンマがこれを嫌い日本近海に近づかず公海で滞留する。それを外国の船がゴソソリと捕獲し近海は不漁となる。昔は、サンマなどは庶民の食べ物といわれ、久慈浜からボテフリ(魚行商)がきて米一升でサンマを5匹位もらえた。「秋に新米のご飯と炭火で焼いたサンマの味は最高においしかったなあー」、今でもあの味は忘れない。(藤田)

編集後記

ワクチン効果か、新型コロナウイルス感染者数が減り、9月末に国の非常事態宣言が解除されました。10月末にはワクチンの「2回目の接種を終えた人の割合」が国民の7割を超えて、私たちの生活に落ち着きと活気が見られるようになってきました。

まだ、マスクと感染対策は欠かせませんが、そのような中「田尻」第15号を発行しました。この広報紙が、皆さんの生活に潤いを与えたなら幸いです。

異常気象とサンマ不漁